

名古屋大学

NUA
archives
university
nagoya

大学文書資料室ニュース

Nagoya University Archives News 第32号 2015. 3

目次

Contents

創立80周年に向けて、名古屋大学歴史展示館の創設を！ (大学文書資料室長 鮎京正訓)—————	2
シンポジウム「今、なぜ大学史か」を開催しました—————	3
椋山女学園歴史文化館（館長 椋山美恵子）—————	4
企画展「戦争と大学」をおこないました—————	6
ホームカミングデーで企画展をおこないました—————	7
『歴代総長と名大史』を刊行しました—————	8
「平成26年度アーカイブズ研修Ⅰ」に参加して (大学文書資料室 佐分さとみ)—————	9
資料室日誌（抄）—————	10
名大史をつむぐ資料を本室に！—————	12



『歴代総長と名大史』の表紙
(本ニュース8頁参照)

創立80周年に向けて、 名古屋大学歴史展示館の創設を！

理事・副総長／大学文書資料室長 鮎京 正訓

名古屋大学は、昭和14（1939）年に創立されました。したがって、あと4年後の平成31（2019）年には、創立80周年を迎えます。

私は、大学文書資料室長として、全国の他の大学の文書資料設備（アーカイブズ）の現状に関心を持ち、京都大学の大学文書館などを見学する機会を得ました。京都大学百周年時計台記念館は、正門を入ったすぐの京大のシンボルである時計台の建物の中にあります。そこには、まず、売店があり、各種の多くの京大グッズが取り揃えられており、工夫を凝らした商品が並ぶ様には圧倒されました。

そして、何よりも京都大学の歴史を示す展示物が数多く揃えられており、京大の歴史が理解できる仕組みになっています。それは、圧巻ともいえるべきものです。ここには、土曜日、日曜日でも多くの高校生や一般市民も自由に訪れることができます。

昨年の11月に名大大学文書資料室は、池内敏先生、堀田慎一郎先生の尽力により、大学史の意義と展望を問うシンポジウムを行いました。基調講演者である東京大学名誉教授の寺崎昌男先生のお話には、心底感動しました。寺崎先生には、『東京大学の歴史』（講談社学術文庫）をはじめ多くの大学史関連の書物があり、講演では、なぜ、大学には大学資料館（アーカイブズ）が必要かというお話をされました。

寺崎先生によれば、大学史というのは、その大学のアイデンティティそのものであり、大学史の講義を聞いた学生は、自分の大学に自信を持つということが語られました。また、大学に大学歴史展示館を設置し、大学の歴史を常設で展示し、何よりも入学してきた学生に自分の大学を理解してもらうこと、さらに教職員に理解してもらうこと、また、一般の中高生をはじめとする若い人々や社会に堂々と大学の歴史を示すこと

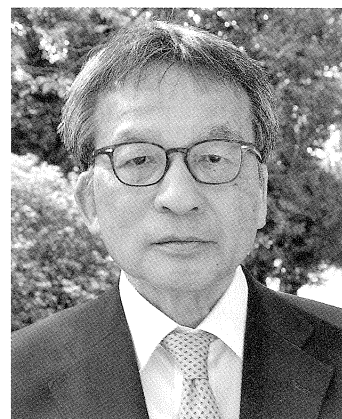
によって、自らの大学の意義が明確になると言われていました。

名大では、大学文書資料室が名大史の授業を開講していますが、大学内外に名大の沿革をしっかりと示す常設の大学史資料展示室は、まだ存在しません。

昨年の夏には、大学文書資料室主催で、「戦争と大学」というテーマで中央図書館の一室をお借りして大学史の一端を展示しましたが、この展示会を通じて、卒業生をはじめとする多くの市民から、名大に関する新しい資料、情報が寄せられました。昨年秋のホームカミングデイにおきましても、大学文書資料室が担当して、豊田講堂で名大史の展示を行いました。また、堀田先生は『歴代総長と名大史—名古屋大学75年の軌跡—』という小冊子をまとめてくれました。

名古屋大学は、赤崎勇特別教授、天野浩教授がノーベル物理学賞を受賞され、今世紀に入ってから、日本人ノーベル賞受賞者11人のうち実に6人が名大卒業、在職経験者であることが話題となり、なぜ名大はノーベル賞が多く取れる大学なのかという質問が、大学に寄せられています。

日本の基幹大学である名古屋大学が、これまで果たしてきた役割について、日々情報発信していく拠点として、創立80周年に向けて、松尾清一新総長の下で、大学内外の力を集め、立派な大学歴史展示館が建設されることを強く願っています。



資料室だより①

○シンポジウム「今、なぜ大学史か」を開催しました

大学文書資料室（以下、本室）では、平成26（2014）年11月26日（水）に、名古屋大学E S総合館E Sホールにおいて、第2回名古屋大学大学文書資料室シンポジウム「今、なぜ大学史か—その意義と展望—」を開催しました。

本ニュース前号でも報じましたように、本室は平成26年4月をもって改組をおこない、部局から本部直属の運営支援組織に移行するとともに、室内を歴史公文書部門と歴史資料・大学史編纂部門に分けました。後者の部門を設けたのは、長期的な展望としては100年史編さんに向けた本学の歴史に関わる資料の収集に取り組むとともに、本学の歴史を学内外にさらに積極的にアピールしていくことを企図しています。これにあたって、あたらためて大学史の意義を問い直しておくことが必要であると考え、このシンポジウムを企画しました。

13時に始まったシンポジウムでは、鮎京正訓室長による開会挨拶の後、寺崎昌男氏（東京大学名誉教授）による「大学沿革史編纂の効用を考える—特色の確認、アイデンティティの醸成、そして自校教育—」と題する40分ほどの基調講演がおこなわれました。



寺崎氏は、多くの大学で沿革史編さんに長年関わってきた経験を踏まえて、大学沿革史が「引き出物」の域を脱し、今やその内容が大学を評価するにあたっての重要な尺度の一つになっていること、これにあたっては「建学の理念」の宣明が必要であるが、それは学術的な確認作業によってその大学の価値選択の歴史を明らかにすることであると述べました。また、良い大学沿革史を編纂することによって、全学的なアイデンティティ、アカデミックコミュニティが形成されるとともに、先学・先輩を生んだ土壌を確認できることが重要であること、アイデンティティ醸成の有効な方法

として自校教育があるが、これをおこなうためには、学術的検証をへた、きれいな歴史だけではない、しっかりとした沿革史が必要であることなどを述べました。そして、沿革史常設展示の重要性のほか、学術の歩みが特に大事であり、沿革史がそこまで踏み込めるかどうか勝負で、編纂者がその勇気を持てるかどうかポイントであると述べて講演を終えました。

その後、瀬戸口龍一氏（専修大学大学史資料課長）が「大学史編纂事業の意義と役割を考える」、吉川卓治氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）が「『名古屋大学五十年史』からの展望」、西山伸氏（京都大学大学文書館教授）が「大学史資料を展示する—京大での実践から—」、福岡猛志氏（日本福祉大学名誉教授）が「大学史とグローバルな視点」と題したそれぞれ20分程度のコメント報告をおこない、寺崎氏と4人のコメンテーターをパネリストとする討論に入りました。



本室の堀田慎一郎室員を司会としておこなわれた討論では、部局史を編さんする際にこれを取りまとめる方法や体制、学術研究の歴史を大学の歴史とどうつなぐのかという問題、大学史と自治体史との関わり、名古屋大学物理学教室憲章の取り扱い、沿革史常設展示の運営の問題点、大学史編さんや大学アーカイブズを担う人材の問題、外国の大学アーカイブズの状況など、多面的な議論が展開し、池内敏本室歴史資料・大学史編纂部門長の挨拶を最後に、17時をもってシンポジウムを終了しました。

このシンポジウムについては、平成27年3月31日に刊行した『名古屋大学大学文書資料室紀要』第23号に、講演やコメント、討論の具体的内容が掲載されていますので、そちらもご覧ください。

東海地区の大学アーカイブズ③

椋山女学園歴史文化館

椋山女学園歴史文化館 館長 椋山 美恵子

はじめに——椋山歴史文化館の成り立ち

椋山女学園は明治38（1905）年に創設され、現在幼稚園から大学院までを擁する総合学園です。椋山女学園歴史文化館（通称椋山歴史文化館）は創設者椋山正式（すぎやままさかず）の生誕130周年を記念して平成21（2009）年6月に開館しました。

設立の背景としては、学園創立100周年（平成17年）に際して収集した資料の遺産があったこと、創設者の旧自宅から新たに多くの遺品が発見されたこと、また以前から存在していた学園資料室を再整備することが長年課題になっていたことが挙げられます。

開設に際してはその趣旨として5項目（①学園の歴史を日本（世界）の歴史の中に位置づける ②学園の教育理念「人間になろう」のアピール ③学園の基礎を築いてきた生徒・教職員の活動の紹介 ④創設者の足跡と人物像の紹介 ⑤学園に関係する人々の文化の交流）を掲げました。館の紹介リーフレットには「歴史を学ぶと、未来が見える」と記し、歴史のなかで学園のルーツを知りアイデンティティーを考える機会を提供する場として位置づけました。

開設場所は学園の昔の面影を残す建造物が少ない中で、歴史を語ってくれる唯一の場所である金剛塔（後述）を含む場所となっています。大学中央図書館の4階上部の塔がそれにあたります。

展示室としては3室（学園の歴史的な資料を展示する歴史展示室、創設者椋山正式の人と生活を紹介する正式記念室、椋山女学園の文化を発表・交流する文化展示室）を設けました。

各室の紹介

歴史展示室

学園の教育理念「人間になろう」や、学園のシンボル「金剛鐘」、「椋」の字、校章などの説明パネルをはじめ、実物展示物としては、学園基礎の時代からの経営と教育を物語る資料、生徒の活動の足跡や思い出の

品々、学園の出版物、椋山正式手稿類、各時代の記念品などがあります。

展示品の中で本学園独特の展示を少し挙げてみますと、その一つに創設時からの学園年誌「糸菊」の実物展示（110数冊）があります。この年誌は教育活動全般の記録の他に、各年度の卒業生（幼稚園から大学院まで）の名簿が載っていますので、在校生も卒業生も、自分が学園の歴史の中に刻まれていることを実感する展示となっています。またこの年誌の内容は館内のI-PADで閲覧できるようにしてありますので、学園外の研究者にも利用されています。

二つ目は学園の初期の裁縫教育の中で制作された着物などの雛形標本です。本学園は裁縫女学校として出発したことから卒業生の作品の寄贈が多くあり、所蔵数は約550点になっています。雛形標本は伝統衣服の形態・構成・素材などを正確に表しており、被服史的にも貴重な資料と言えます。

三つ目は三八銃（さんぱちじゅう）です。これは日露戦争の明治38年に初めて製造され、その後第2次大戦終了まで日本軍の主力兵器として使われたものです。明治38年がちょうど学園創設の年であることから、学徒動員で多くの生徒を亡くした本学園として、この100年が戦争の100年であったという歴史を振り返るために置いたものです。

正式記念室

正式記念室は、創設者正式・今子夫妻が生前に住んでいた居室を再現したもので、自筆の書や愛用の品々などによって人と時代を感じとれる展示となっています。この場所は天井がドーム型になっていて、金剛塔の内部を利用しています。（金剛塔とは、創設者椋山正式が大正時代にイギリスに発注した、10個の鐘から成るカリヨンという楽器—金剛鐘と名づけた—を吊るした塔のことで、ここは第1代目の塔として学園の歴史を物語る建造物となっています。現在金剛鐘が吊るされている塔は中高のキャンパスにあり、それは第4代目ですが、金剛鐘自体は設置以来のもので、現在に

至るまで中高の毎朝生徒が演奏し、学園のシンボルとなっています)

文化展示室

年2～3回の企画展を開催しています。幼稚園から大学までの各学校の生徒、教職員、同窓会、PTAなど学園に関係する人々の文化の交流に留まらず、学園外の一般の人々にも来ていただいています。(これまでの展示テーマ……栢山正式・今子趣味の世界、大学開学60周年写真展、同窓生作品展、教職員作品展、栢山女学園大学生生活デザイン学科卒業作品展、「人間になろう」作品展、モノとデジタルアーカイブ展、旧家政学部(現生活科学部)食物学科あゆみ展、教材教具展、学園創設者栢山正式没後50年展、前畑秀子生誕100年展など……)

栢山歴史文化館の主な活動

〔広報〕

- ・「栢山歴史文化館ニュース」の発行(毎年2回)
- ・ホームページによる発信(随時)
- ・学園外からの要請への協力(随時)
- ・「文化展示室」における企画展の開催(年2～3回) および関連の講演会・トークセッション
- ・文化情報学部のゼミに協力して、テーマ別自校史映像シリーズ作品8本を制作(平成23～25年)館内、および歴史文化館HP上にて常時公開

〔教育(自校史教育)〕

- ・クラス・ゼミなどの歴史文化館見学会の実施、自

校史に関する講演(随時)

- ・冊子の発刊(「栢山女学園の教育をたどることは集」平成13年発行)
- ・「栢山歴史検定」の実施(希望者)
- ・学芸員要請講座への協力(毎年1回)

〔研究〕雛形研究会(所蔵の雛形約550点を研究、まとめの本の作成計画中)

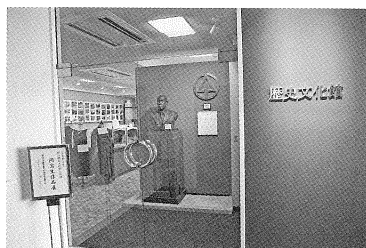
〔資料の整理・保存〕所蔵資料のデータ化を進める

今後の課題

日常の活動としては、来館者に満足してもらえる館にするための仕事の基本であることは言うまでもありません。来館者には要望に応じて丁寧に説明をすることを大切にしていますが、自分のペースで閲覧したい人のために、展示一覧表とは別に『栢山歴史文化館ガイド』を配布し、チェックポイントを自分で照合しながら閲覧出来るようにするなどの工夫をしています。しかしより閲覧しやすい展示にするための課題は山積しており、また広報・教育・資料保存の分野ではより効果的なあり方を模索していかなければなりません。

また来年度途中には「栢山歴史文化館山添展示室」(現在の館は大学キャンパスにあるため、幼稚園から高校までの学校がある山添キャンパスに開設する分室)をオープンする予定ですので現在はその準備の最中です。

開館からこの6月で6年になりますが、よりよい学校博物館にするために他校の事例などに学んで一つひとつ課題を解決していきたいと考えています。



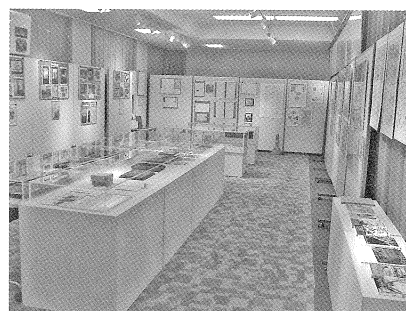
歴史文化館入口



正式記念室



歴史展示室



文化展示室

資料室だより②

○企画展「戦争と大学」をおこないました

大学文書資料室（以下、本室）は、企画展「戦争と大学—1931～1945 国立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」を、平成26（2014）年8月1日（金）から31日（日）を会期に開催しました。附属図書館医学部分館との共催によるものです。1,079人の観覧者がありました。

この企画展のきっかけとなったのは、同年2月12日から6月7日まで鶴舞キャンパスで開催された、附属図書館医学部分館による同名のミニ展示会でした。この展示会や本室の所蔵資料が、戦時下の名古屋大学をテーマとするNHKの番組で取り上げられたことをうけて、今度は東山キャンパスにおいて展示を急ぎおこなうことになりました。内容も、本室の所蔵資料や展示パネルなどによって大幅に増補し、医学部以外の学部や東山キャンパスなどについても展示しました。会場も、全面改修によってリニューアルオープンした中央図書館の新施設ビブリオサロンを使うことができたため、準備期間はごくわずかながら、本格的な企画展として再構成しました。

また、企画展の準備中に、南京国民政府主席汪兆銘の名古屋帝国大学医学部附属医院における死と俳優の森光子さんに関わる資料が発見されたことが分かり、企画展の中でこれについての展示をおこなったところ、中日新聞が朝刊の一面で取り上げるなど大きな反響がありました。またそのほかにも、この東山の企画展で初公開された資料があり、注目されました。

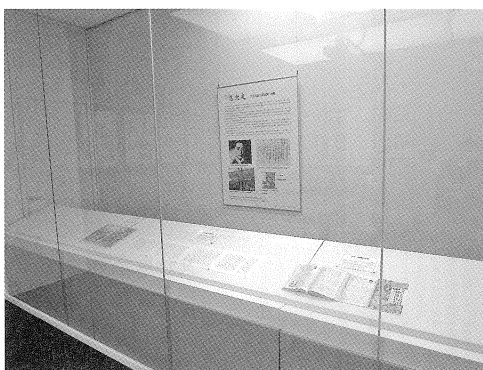
具体的な展示内容については、平成27（2015）年3月31日に刊行した『名古屋大学大学文書資料室紀要』第23号に詳しい記録が掲載されていますので、そちらをご覧ください。



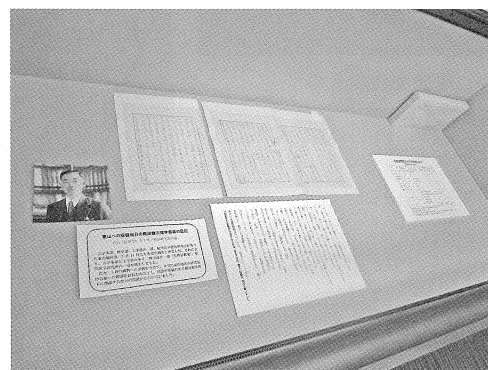
企画展全景



名古屋医科大学関係のケース展示



汪兆銘と森光子さんに関する展示コーナー



東山への空襲当日の柴田雄次理学部長の日記（初公開）

資料室だより③

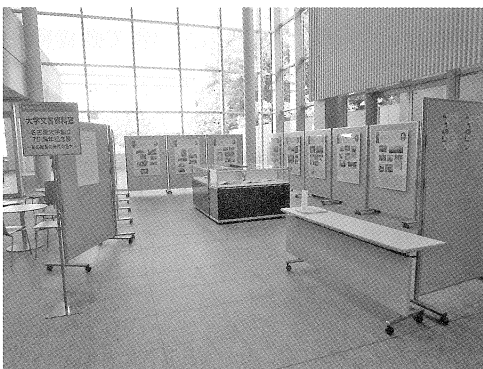
○ホームカミングデイで企画展をおこないました

大学文書資料室は、平成26(2014)年10月18日(土)に開催された第10回名古屋大学ホームカミングデイにおいて、企画展「名古屋大学創立75周年記念展 あの総長の時代の名大」をおこないました。場所は、メイン会場である豊田講堂のホワイエです。

この企画展は、その題目にもあるように、本学が昭和14(1939)年に名古屋帝国大学として創立されてから75周年を記念するものです。本学では、70周年の時に盛大な式典等の記念事業をおこなったためか、75周年記念関係の行事は、今回のホームカミングデイではとくに計画されていませんでした。しかし75年といえば、三四半世紀ということでなかなか区切りのよい数字で、ここは本学のアーカイブズたる大学文書資料室が何らかの動きをすべきではないかと考えました。その一つがこの企画展です。

パネル展示は、ホームカミングデイ当日に刊行した『歴代総長と名大史—名古屋大学75年の軌跡—』(本ニュース8頁参照)から、名帝大創立以後の歴代総長に関する写真と任期中の出来事の年表を抜粋したものです。総長1人につき1枚のパネルとしました。資料展示では、「名大全体の周年記念刊行物」、「名大の広報刊行物」、「名大祭」という三つのテーマを設定し、三つの展示ケースをそれぞれのテーマに充てて関係資料を配置しました。

当日は、ホワイエの中ではやや奥まった場所であったにもかかわらず、450名を超える観覧者がありました。自分が名大に関わった時代の総長のパネルが必ずどこかにあり、また資料展示は普遍的なテーマであったこともあり、皆さんに一目でも見て行こうという気持ちになってもらえたようです。



企画展全景



展示パネル



展示ケース (名大祭)



展示を観覧する人々

資料室だより④

○『歴代総長と名大史』を刊行しました

平成26(2014)年10月、小冊子『歴代総長と名大史—名古屋大学75年の軌跡—』を刊行しました。名古屋大学発行、大学文書資料室編集によるものです。

大学文書資料室では、すでに名大史ブックレット第13巻として、『名古屋大学 歴代総長略伝—名大をひきいた人びと—』(堀田慎一郎著、平成21年)を刊行し、好評をいただいています。ただ同書は、文章は平易で読みやすいのですが、写真は歴代総長の顔写真だけで、やや地味で単調な印象は否めませんでした。

今回は、文章をさらに少なくし、その分は厳選した写真や略年表を掲載、しかも全ページカラーとして、親しみやすさに最も重点を置いた43ページの小冊子としました。内容は、歴代総長の個性に注目しつつも、それぞれの在任時代の名古屋大学についても紹介し、全体として名大史を通観できるようになっています。

少し中身を見てみますと、総長1人につき2ページを割り、右側のページでは総長個人の紹介や在任時代の業績を文章で説明、総長個人に関わる写真も載せました。また、それぞれの総長のタイトルの副題として、総長の座右の銘や在任時代の印象的な言葉を載せたことも、ブックレットにはなかった試みです。左側のページには、その総長の在任時代における名古屋大学の写真と略年表を載せました。

また、名古屋帝国大学として創立された後の75年間を中心としつつも、明治初年の医学校以来の長い前身学校の歴史があることも分かるように配慮しました。かなりのページを割いて、前身学校の著名な学長や校長を取り上げ、それぞれの学校の略年表も載せています。

この小冊子は、平成26年10月18日の第10回名古屋大学ホームカミングデイ当日、入場者への配布物セットの中に入れられ、約4,000人に配布されました。まだ在庫がかなりあります。入手希望の方は、大学文書資料室へご連絡ください。



資料室だより⑤

○「平成26年度アーカイブズ研修Ⅰ」に参加して

大学文書資料室 室員 佐分 さとみ

平成26（2014）年4月から、名古屋大学大学文書資料室のスタッフの一員に加えていただきました。歴史公文書部門担当室員として、日々移管されてきた公文書と向き合っています。約42年間 大学職員として業務をしてきた私にとって、移管されてくる公文書は、時として直接作成したものであったり、間接的に関係した内容のものであったりし、書類の整理をしながら非常に懐かしい想いに浸されることがあり、興味深く仕事をさせていただいています。

このような中、9月1日（月）～5日（金）の日程で開催された国立公文書館主催の標記研修に参加させていただきました。5日間にわたる研修内容は、次のようなものでした。

- ◇組織とアーカイブズ 加藤丈夫（国立公文書館館長）
- ◇公文書等の管理に関する法律 青池健一（内閣府大臣官房公文書管理課）
- ◇アーカイブズ概論 森本祥子（東京大学文書館特任准教授）
- ◇諸外国における公文書管理 小原由美子（国立公文書館公文書専門官）
- ◇公文書の評価選別 小宮山敏和（国立公文書館公文書専門官）
- ◇アーカイブズ特論 石井夏生利（筑波大学図書館情報メディア系准教授）
- ◇特定公文書等の利用（審査基準）松田暁子（国立公文書館業務課利用審査室）
- ◇事例報告① 原田知佳（小布施町文書館）
- ◇特定歴史公文書等の目録作成等（所蔵資料情報の提供）水野京子（国立公文書館公文書専門官）
- ◇電子公文書等の移管、保存、利用 岡本詩子（国立公文書館業務課電子情報第2係）
- ◇紙資料の保存・修復 阿久津智広（国立公文書館業務課修復係）
- ◇事例報告② 津田光生（熊本県県政情報文書課）
- ◇デジタルアーカイブ 八日市谷哲夫（国立公文書館業務課電子情報第1係）

11の講義と2つの事例報告、班別討議、国立公文書館の見学と多彩な内容で、非常に充実した内容のものでした。

この研修をとおして、公文書管理についての基本的な方向性が少しは理解できたように思います。健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源である公文書をいかにして主権者である国民が主体的に利用しうるものとするのか。資料の評価・選別、目録の作成、保存・修復、複製物の作成、利用制限等前途は多難ですが、「現在及び将来の国民に説明する義務が全うされるようにする」という大きな命題を視野に入れて未熟ながらできる範囲内で、今後の業務を行っていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような研修に参加する機会をいただき、ありがとうございました。

資料室日誌 (抄) 平成26(2014)年2月～27(2015)年1月

- 2月1日 松下佐知子事務補佐員が井上靖文学館（静岡県）を訪問し、借用資料を返却。
- 2月3日 堀田慎一郎室員が市立大町山岳博物館（長野県）を訪問し、借用資料を返却。
- 2月4日 企画展展示資料の書庫への収納作業（石岡あづみ氏ら協力）。
- 2月6日 「文化のみち二葉館」（名古屋市）に企画展のため資料を貸し出す。
- 2月7日 内閣府官房公文書管理課から2名来室、歴史資料等保有施設の指定に関する現地調査・ヒアリング（池内敏室長・澤田利夫総務課長・堀田室員・井田幹恵企画調整掛長）。
- 2月14日 堀田室員が総務部総務課の文書管理プロジェクト会議に出席。
- 2月18日 本室室会議を開催（構成メンバー＝池内室長・堀田室員・井田掛長・松下事務補佐員）（3/19にも開催）。
- 2月19日 本室事務補佐員応募者を面接（池内室長・澤田課長・堀田室員）。
- 2月21日 大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室より本室へ資料を移動。
- 2月25日 工学部・工学研究科総務課より法人文書を移管。
- 3月3日 工学部ウェルカムパーティ実行委員会保存資料の本室への移管が決定。
- 3月10日 本学の年度末退職者に資料寄贈を依頼。
- 3月12日 八高会より資料を受贈。
来年度の体制及び方針等について鮎京正訓理事と打ち合わせ（池内室長・堀田室員・井田掛長）。
- 3月17日 本室研究会議（第1回）を開催（池内室長・羽賀祥二教授・吉川卓治教授・堀田室員・井田掛長）。
- 3月20日 小林邦彦名誉教授より資料を受贈。
- 3月24日 本室運営委員会（第31回）を開催。
- 3月26日 堀田室員がホームカミングデイ実行委員会に出席（以後、5/27日、9/18、11/13も出席）。
- 3月27日 榊田温氏・榊田淳二氏より加藤籙五郎関係資料を受贈。
- 3月28日 佐分さとみ氏に業務引継ぎ（井田掛長）。
- 3月31日 『名古屋大学大学文書資料室紀要』第22号、『名古屋大学大学文書資料室ニュース』第31号を刊行。
- 4月1日 運営支援組織大学文書資料室が発足。
鮎京正訓理事・副総長が室長に、池内敏教授が歴史資料・大学史編纂部門長に、堀内敦総務部長が歴史公文書部門長に、堀田慎一郎特任助教と佐分さとみが室員に就任。
本室歴史資料・大学史編纂部門が内閣総理大臣により歴史資料等保有施設に指定。
第1共同利用施設第203号室を書庫として利用開始。
- 4月2日 堀田室員が新規採用職員研修で名古屋大学の歴史について講義。
- 4月3日 総務部広報渉外課から広報プラザ保管資料を移管。
- 4月8日 新任教員研修でポスター及び刊行物を展示。
- 4月9日 佐分室員に業務引継ぎ（堀田室員）。
- 4月15日 全学教育科目（前期）「名大の歴史をたどる」を開講。
- 4月16日 本室室会議を開催（構成メンバー＝鮎京室長・池内部門長・堀内部門長・堀田室員・佐分室員・井田掛長・11月から柳内佑介事務職員）（以後、5/16、6/24、7/17、9/17、10/24、11/28、1/21に開催）。
- 4月23日 本室研究会議（第2回）を開催（池内部門長・羽賀教授・吉川教授・堀田室員）（5/21に第3回を開催）。
- 5月20日 北川善英氏より資料を受贈。
- 5月23日 NHK名古屋放送局が本室及び所蔵資料を撮影。
- 5月26日 NHK名古屋放送局「ほっとイブニング」で本室及び所蔵資料について放送（翌27日にも「おはよう東海」で放送）。
- 5月28日 佐分室員が、国立公文書館の「公文書管理研修Ⅰ」（東京）を受講。
- 6月9日 堀田室員・佐分室員が、全国公文書館実務担当者意見交換会に参加（札幌市）。
- 6月10日 池内部門長・堀田室員・佐分室員が全国公文書館長会議及び「国際アーカイブズの日」記念シンポジウムに出席（札幌市）。

- 6月11日 池内部門長・堀田室員・佐分室員が北海道大学大学文書館を視察（札幌市）。
- 6月18日 山根恒夫名誉教授、名大祭本部実行委員会から資料を受贈。
- 6月20日 松下事務補佐員が愛知大学豊橋図書館で資料調査。
- 6月24日 全学教育科目「名大の歴史をたどる」で濱口道成総長が講義。
- 6月26日 樋口敬二名誉教授より資料を受贈。
- 7月11日 内閣府に「平成25年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告調査票」を提出。
- 7月14日 附属図書館医学部分館から企画展示用資料を借用。
- 7月16日 大学文書資料室紀要専門委員会（第1回）を持ち回りで開催。
- 7月17日 「平成25年度に作成された印刷物の提供について」を各課等の総務関係掛長に依頼。
- 7月25日 農学部・生命農学研究科、教養教育院事務室より法人文書移管。
- 8月1日 企画展「戦争と大学」を附属図書館医学部分館との共催で開催（～8/31）。
企画展のマスコミへの合同説明会で堀田室員が解説。
- 8月7日 加藤延夫元総長より、加藤鏖五郎関係資料を受託。
- 8月8日 企画展の役員等内覧会。
- 8月14～15日 全学一斉夏期休暇にともない閉室。
- 8月20日 企画・学務部学務課、研究協力部研究支援課より法人文書移管。
- 8月21日 研究協力部研究支援課より法人文書移管。
- 9月1日 佐分室員が国立公文書館の「アーカイブズ研修Ⅰ」（東京）を受講（～9/5）。
- 9月2日 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科より法人文書移管。
- 9月3日 文系事務部より法人文書移管。
- 9月8日 附属図書館医学部分館へ借用資料を返却。
医学部・医学研究科総務課より法人文書移管。
- 9月9日 近藤龍夫氏より聞き取り、資料を借用。
- 10月2日 内閣府官房公文書管理課から2名が、大学文書資料室の現状などに関する現地調査および意見交換のため来室（大矢淳一総務課長・堀田室員・井田掛長・佐分室員）。
- 10月6日 総務部職員課、企画・学務部入試課より法人文書移管。
- 10月13日 全学教育科目「アーカイブズ学入門—文書史料の世界をあるく—」を開講。
- 10月14日 博物館の吉田英一教授・藤原慎一助教、学習院大学大学院生の久保田明子氏と企画展に向けての宇宙線研究室資料の調査について打ち合わせ。
- 10月18日 ホームカミングデイにて企画展「あの総長の時代の名大」を開催。
小冊子『歴代総長と名大史』を刊行、ホームカミングデイ入場者約4千名に配布。
- 10月23日 教育学部附属学校より法人文書移管。
- 10月24日 工学部・工学研究科総務課、附属図書館、研究所事務部より法人文書移管。
- 11月5日 附属図書館庶務掛より法人文書移管。
- 11月10日 情報推進部より法人文書移管。
学習院大学久保田氏が博物館企画展に向けての資料調査（翌日、及び翌年1/6～1/8にも実施）。
- 11月21日 総務部総務課より法人文書移管。
- 11月26日 シンポジウム「今、なぜ大学史か」を開催。
- 11月27日 金沢大学資料館から奥野正幸館長ら3名が来室、本室の視察及びヒアリングをおこなう（堀田室員・井田掛長・佐分室員）。
- 12月4日 東京工業大学博物館より江上不二夫資料を受贈。
- 12月18日 堀田室員が核融合科学研究所の自然科学系アーカイブズ講演会・研究会に出席、「「名古屋大学アーカイブズ」の20年」と題して講演。
- 12月31日 松下佐知子事務補佐員が退職。
- 1月13日 佐分室員が、総務課の文書管理プロジェクトによる文書管理クロスチェックに参加。
- 1月22日 齋藤英彦名誉教授（全学同窓会副会長）より資料を受贈。
本室事務補佐員の公募を告示。
- 1月28日 堀田室員が法人文書ファイル管理簿の更新説明会において歴史公文書の移管等について説明。

名古屋大学の卒業生、現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を本室に！

その他、ご処分予定の資料についても、まずはご一報ください

- ◎在学時の配布物
(学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…)
- ◎教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料
(各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事…)
- ◎校費による印刷物・刊行物
(冊子、パンフレット、ポスター…)
- ◎ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※ご寄贈資料は、名古屋大学大学文書資料室規程等にもとづき、大切に保存・管理・活用させていただきます。とりわけ資料の公開につきましては、寄贈者の意向を最優先しつつ、深甚の配慮をいたします。

【連絡先】 名古屋大学大学文書資料室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 789-2046
FAX 788-6222
Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学文書資料室ニュース 第32号
Nagoya University Archives News No. 32

名古屋大学大学文書資料室
室長 鮎京正訓 (理事・副総長)
部門長 池内敏
(歴史資料・大学史編集部門、文学研究科教授)
部門長 堀内敦
(歴史公文書部門、総務部長)
室員 堀田慎一郎 (特任助教・専任)
室員 佐分さとみ (契約職員・専任)
掛長 井田幹恵
事務職員 柳内佑介
事務員 増田よしみ
伊藤由美

発行日 2015年3月31日
編集発行 名古屋大学大学文書資料室
名古屋市千種区不老町〒464-8601
電話：(052) 789-2046
FAX：(052) 788-6222
E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp
印刷 株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田2-16-38